

平成30年度第1回 知床世界自然遺産地域
適正利用・エコツーリズム検討会議
議事録

日時：平成30年9月27日（木）13：30～16：00
場所：羅臼町公民館 2階 大集会室（ホール）

会 議 次 第

開会

あいさつ

議事

1. 知床エコツーリズム戦略に基づく提案の進捗状況
2. 知床エコツーリズム戦略に基づく提案について
3. 実施部会からの報告
 - (1) 赤岩地区昆布ツアー一部会
 - (2) 外国人旅行者向け情報発信の強化部会
4. 個別部会からの報告
 - (1) 厳冬期の知床五湖エコツアー事業
 - (2) カムイワッカ地区における取組
 - (3) 知床五湖地区における取組
 - (4) ウトロ海域における取組
5. その他
 - (1) 長期モニタリング計画の見直しについて
 - (2) 第41回世界遺産委員会決議の対応について
 - (3) 知床五湖の外来種について
 - (4) ヒグマの問題について

閉会

事務局 環境省 高辻

平成30年度第1回知床世界自然遺産地域適正利用・エコツーリズム検討会議を開催する。
私は環境省釧路自然環境事務所の高辻と申します。よろしくお願いいたします。
開会にあたり羅臼町長湊屋様よりご挨拶を頂戴する。

羅臼町長 湊屋

本日はエコツアーリズム検討会議の開催にあたり多くの皆さんに羅臼町へ来ていただいた。心から歓迎を申し上げる。日頃より知床のエコツアーリズムに関する様々な意見を頂戴し、一つの形を作るべく努力いただいている事に心から感謝申し上げます。

知床世界自然遺産を楽しんでいただく機会が増え、羅臼町でも多くの方に来ていただいている。しかし、先月お1人の方が岬に向かう途中に行方不明なるという残念な事故もあった。そのような中で、今後そういう事故を未然に防ぐために、これから皆さんの意見も頂戴しながら対応に当たっていきたいと考えている。是非ご協力をお願いしたい。

管内7町で車の知床ナンバープレートが誕生する事になった。それに当たり図柄の募集をした結果、全国から178作品の様々なイラストを応募いただいた。全国の方々から寄せられた絵を見ると、この知床をどのように見ているのかが非常に良く分かる。現在、役場の大会議室において全ての作品を壁に貼らせていただいている。お時間があればご覧いただきたい。知床ナンバーが付くのは2020年を予定している。

この知床の自然を守りながら適正な利用を地域としてどう心がけて行くかを考えている。皆様には今後ともまた本日の会議でも様々なご提案をいただきたい。

事務局 環境省 高辻

本日の委員出席状況を報告する。石川委員と庄子委員は欠席である事を報告する。

【資料確認】

これより議事進行は敷田座長にお願いする。

敷田座長

平成30年度第1回知床世界自然遺産地域適正利用・エコツアーリズム検討会議の議事を開始する。

初めに座長の私からお願いを申し上げます。1点目は議事の進行の仕方について。この適正利用・エコツアーリズム検討会議は知床エコツアーリズム戦略に基づいて建設的な議論をする場と位置付けられている。これまでの様々な経過はあると思うが、今後の豊かな知床を実現するために前向きな意見を発言する場である。新しい意見や新しい発想は、ともすれば問題点や欠陥があったりするが、それを恐れては前へ進めない。是非、新しい提案に対しては寛容な目で見いただきたい。

2点目は、発言の際に所属の会議や協議会、団体、組織を代表する意見と個人が自身の専門や経験に基づいて発言する意見は極力区別してお話いただきたい。他の方からどちらの意見かが分かるように発言していただきたい。どちらの立場で発言いただいても構わない。

ワーキンググループのメンバーは専門的知識を問われて参加している。発言はほぼ専門分野の経験や知識によるものとお考えいただきたい。ただし、専門家とは言っても個人的な意見や個人的な主張が入る場合がある。その時は遠慮なく確認、チェックをしていただいで結構である。ワーキング委員の皆様もこの点の切り分けに協力をお願いしたい。

個人の発言の内容については、直ちにこの場で責任を問う事は無い。建設的な意見は本日実現できなくても明日以降に実現する場合もある。条件が揃った場合に実現するという考えを持っていただきたい。なお、この会議は2時間半を予定しており、終了が16時である。その後予定のある方もいらっしゃるため、皆さんの共通の資源である2時間半、時間の有効な活用に協力をお願いします。

前回の会議で議事進行のための参考アンケートをとった結果を配布している。議事の合間に見ていただきたい。本日はアンケートの様式が変わっている。振り返りのコメントを書いていただくように用意している。こちらは休憩時間、会議終了後にお書きいただきたい。無記名式である。前回の結果については時間があれば触れたい。議事進行上では触れない事となっている。結果についてはデータをグラフ化し、皆さんに書いていただいたコメントはそのまま載せている。

最終ページの「その他」についての記述は書いていただいたそのままを記録している。例えば、設問6の「議事進行がフェアだと感じられなかったのはどのような時ですか。」という質問に対して、「座長の個人的な発言が多すぎる。」「座長が自身のストーリーで進めて行く。」というような私に対する批判が入っている。こういう事も構わず書いていただいて結構である。そのまま書いていただく方が議事進行に参考になる。こういう事が無いように進めたいと思っている。しかし、私も人間であり失敗もあるためご容赦願いたい。

議事に入りたい。現在の知床エコツーリズム戦略に基づく提案の進行状況について、事務局の北海道庁より説明をお願いします。

【議事1. 知床エコツーリズム戦略に基づく提案の進捗状況】

事務局 北海道オホーツク総合振興局 大道

知床エコツーリズム戦略に基づく提案の進捗状況について説明（資料1）

敷田座長

内容、進捗状況について質問やコメントはあるか。大道氏より懸念や心配事、コメントしたいところは無いか。

事務局 北海道オホーツク総合振興局 大道

特に無い。

敷田座長

進捗状況を共有していただいたと思う。

2 番目の議事、知床エコツーリズム戦略に基づく提案について内容を説明していただきたい。提案については、皆さんご承知の通り知床エコツーリズム戦略の基本原則と必要な視点に従って審議をする。今回は提案の第一段階であり、提案が妥当であるか、その提案を議論する意味や妥当性があるかを検討する事になる。

知床エコツーリズム戦略の基本方針だけを説明させていただく。知床エコツーリズム戦略の基本方針には3つの基本原則がある。1 点目は「自然環境の保全とその価値の向上」、2 点目は「世界の観光客への知床らしい良質な自然体験の提供」、3 点目は「持続可能な地域社会と経済の構築」である。この点の共有をお願いする。事務局から説明をお願いする。

【議事 2. 知床エコツーリズム戦略に基づく提案について】

事務局 環境省 守

知床観音岩 COAST WAY フットパスコース（仮）の進め方について説明（資料 2-4）

敷田座長

分かりやすい説明をしていただいたので誤解は無いと思う。これより提案者から説明していただく。今回は部会を設置して良いかどうかの検討である。部会を設置するという事は、検討に入って良いという 1 回目の GO サインである。2 回目は検討結果を見て最終的に実施して良いかというもの。早ければ次回の検討会議で検討となる。

資料 2-4 の進め方チェックリストを参照しながら考えていただきたい。提案者は知床羅臼フットパスクラブと伺っているが、問題、間違いは無いか。

知床羅臼フットパスクラブ 村田

間違い無い。

敷田座長

説明しやすい位置に座っていただき説明をしていただきたい。前の席のどこかへ来ていただくと顔が見えて良い。増田氏の隣の席に付いていただき、説明をお願いする。

知床羅臼フットパスクラブの方に着席していただいた。説明を担当される方の所属、名前、クラブでの位置付けを説明後、提案内容の説明をしていただきたい。一通り説明していただいた後に質疑応答とする。なお、フットパスクラブの概要や経過の説明をお願いする。どういう組織であるのか、その実行力や推進力といったものにも触れて説明いただきたい。私の説明で分からない点があるか。

知床羅臼フットパスクラブ 村田

疑問点は特に無いため説明する。知床羅臼フットパスクラブの村田と申します。代表の高

島は本日都合が悪く出席できなかったため私から説明する。

管内でも様々なフットパスが設定されているが、羅臼海岸線コースをフットパスコースに設定すると、他にはあまり無い魅力あるコースを作る事ができると思った。海岸線コースをメインに出して行きたい。

具体的には羅臼町の峯浜地区から海岸線に降り、羅臼町の入り口の幌萌の辺りで上に上がるコースを考えている。既にそのコースを実際に歩いて確認し、問題点の検討を進めているところである。

コースは2つ考えており、先程説明したコースは標津側から来た場合に最初に設定を考えているコースである。もう一つは相泊地区から観音岩の辺りまでの海岸線を歩くコースを設定したい。観音岩までは行ってないが事前に途中まで歩いて確認した。

フットパスやトレイルを利用するお客さんが増えている実感がある。羅臼町においては既に町から近い山のコースなども設定されているが、それに加えて海岸線という魅力あるコースを設定したら良いと考えている。

また、実際に今後は様々な問題をクリアしていかなければならない。知床半島先端部の一部をコースに設定するという事は、利用のための規則に沿った形で行わなくてはいけないと思っている。

先程町長からの話にあったが、実際に海岸線を歩いて事故が起きている。それを未然に防ぐ為にルサのフィールドハウスを利用して、利用のルールや注意点のレクチャーをしっかり受けるような形で進めていきたい。環境省等関係者には今後説明して利用を検討していただきたいと思う。

また、クラブとしては外来植物の駆除を兼ねてフットパスコースの監視や整備を行っていきたく思っている。

実際に歩いている人はかなりいるという実感がある。先端部はもともと昆布漁を行っていた場所であり、羅臼産業の重要な一部である。コースを設定すると利用者も増え、羅臼昆布についてお客様に知ってもらう事ができるのではないかと思う。私が小学生の頃は昆布漁がとても盛んで、岬方面に移住して仕事をしていた。その当時の羅臼村は学校の先生も生徒を見る為に船に乗って上陸し、移住してそれほど頻繁に戻る事は無いという状況であった。

私は若い頃に赤岩より少し羅臼側にあるニカリウシというところでアルバイトをしていた。現在、難所と言われている岩にはロープが下がっており、聞いたところによると船が出せない状況でもどうしても移動しなければならない場合に利用するという事であった。ロープをつたっていけば隣に行けるとい事が分かり、私も隣へ行ったり岬方面に行ったりしていた。

昆布場は非日常の世界であり、心を揺さぶられる素晴らしい場所である。自分はそこに住んでいながらも特別な場所だと思っていた。その後、羅臼町では岬方面に「ふるさと少年探検隊」という名称で、子供たちや先生、役場職員、PTAの方に引率されて実際に行っている。

きっとお客様にも喜んでもらえるコースが作れるのではないかと考えている。

敷田座長

体験も含めた説明をしていただきありがとうございます。今の説明に基づき審議をしたい。自由に意見を言っていただきたい。事務局から何かコメントはあるか。

事務局 環境省 守

この後提案いただく審議の仕方等について説明させていただく。

知床観音岩 COAST WAY フットパスコース（仮）に係る課題整理について説明（資料 2-3）

敷田座長

環境省から話があったように、決定的な法律違反や重大な既存ルールの無視は無いという事であり議事を進めたい。内容について自由に質問、意見をお願いしたい。

必要に応じてフットパスクラブに回答をしていただく。ワーキング委員の皆様には自身の分野から発言いただいで結構である。

愛甲委員

このフットパスでは、どういう方が歩かれる事を想定しているのか。

知床羅臼フットパスクラブ 村田

先端部まで行くとなるとフットパスとは違う分野だと思っている。利用者は従来フットパスを楽しんでいただいている方や旅行者を想定している。フットパスができれば様々な媒体を使って宣伝を行い、伝える事になると思う。それを見て来る方がいるのではないかと考えている。我々も先端部の観音岩から少し向こう側はフットパスには適さないと思っており、フットパスとして設定するには観音岩ぐらいまでが適切だと思っている。

敷田座長

愛甲委員の質問は、特定の利用者を想定しているのかという事だと思う。例えば、フットパス愛好者を想定しているのか、一般の観光客が入れるように想定をしているのかという事だと思う。その点について私からも質問したい。

知床羅臼フットパスクラブ 村田

フットパス愛好者が主になるかと思うが、こちらに来てからそういうコースがあると分かり、行きたいという観光客にも利用してもらえるようになれば良いと思っている。実際には様々な問題もあるため考えていかなければならないと思っている。

敷田座長

一般の利用者の利用も想定しているという事である。

知床ガイド協議会 岡崎

私も標津方面でフットパスを歩いた事がある。フットパスは一方通行が多いと思うがこのコースはどうなるのか。帰りにまた同じ道を帰ってくるのか。

知床羅臼フットパスクラブ 村田

峯浜から幌萌までのコースは片道というように考えている。

知床ガイド協議会 岡崎

そのコースは国立公園内ではないため、ある程度自由にできる。しかし、羅臼側のコースは全く違う。今年は事故も起きている。責任の所在などの様々な問題があると思うが、その辺はどのように考えられているのか。

知床羅臼フットパスクラブ 村田

相泊から先端部に関しては行って帰ってくるというコースになると思う。観音岩から先は行けないと思うため、そこで折り返して相泊まで戻って来るという事になると思う。

安全の確保についてはこれからの話になる。ルサフィールドハウスに立ち寄り、必ずレクチャーを受けてから行ってもらうような仕組みにしたい。

敷田座長

往復利用で管理体制については部会設置後に検討するという事で如何か。

知床ガイド協議会 岡崎

了解したとは言えない。

敷田座長

了解できないのであれば発言いただいた方が良い。

知床ガイド協議会 岡崎

現時点では基本的に自由に行く事ができる。フットパスとなるとルサフィールドハウスでレクチャーを受けるという事だが、レクチャーは無料なのか。レクチャーを受けて入る人と、自由に入って行く人をどのように区別するのか。

知床羅臼フットパスクラブ 村田

そこまでは考えていなかった。クラブに問い合わせがあった場合に、レクチャーを必ず受けて入るように言うつもりであった。実際にはパンフレット等を作るようになると思うが、それを見る、他の情報を得るなどでそのまま行ってしまう人もいるかも知れない。その辺は考えなければいけない問題だと思う。現時点ではそこまでは練っていないというのが実態である。

敷田座長

岡崎氏宜しいか。

知床ガイド協議会 岡崎

了解した。

敷田座長

質問の内容は非常に妥当だが、今後部会で検討するという余地は十分にある。愛甲委員と岡崎氏の指摘の通り、管理については部会設置後に重点的に検討していただきたい。どのような利用者を想定して、どのような管理を行っていくかは部会で検討して報告いただければ良い。他に関連する意見や質問はないか。

愛甲委員

これは部会で検討していただくのか、事務局で整理していただく必要があるのか分からない。現状では先端部地区は相泊から先を設定しており、利用の心得や管理計画、エコツーリズムの様々な取り決めの中でも、そこから先の利用は違う色分けをしている。知床の場合、そこから先の利用については、気を付けて欲しい事も変わるということ。

フットパスという概念と想定される利用者がその場所に合うのだろうか。観音岩まで広げるという事になるかもしれないという話だが、一般の観光客が入るとするような想定をすると、この先端部地区の区切りを超えてしまう事になるかもしれない。どういう想定をするのか、その整合性が取れるか、入っていただくにはどういう事をお願いしなければいけないのか。少し整理する必要がある。そういう部分が分からないため、まだ判断ができない。

敷田座長

愛甲委員の発言にフットパスの概念という言葉があった。フットパス利用の特徴という意味だと思うが、少し分かりにくいため補足を願います。その後にお答えいただきたい。

愛甲委員

道内の他の場所を例にしてもフットパスは基本的に自由利用である。自己責任で利用する。これは一般的な概念だが、フットパスはトレッキングや登山と比較すると、スキルとし

でも体力的にもかなり手軽に利用できる印象である。実際にフットパスに参加されている方、歩いている方を見ても、比較的高齢な方が多いというのが実情、実態としてある。フットパスと名前をつける事によって、そういう人達を呼び込んでしまうのではないかと。そういう人達を相泊より先に行かせてしまうような状態にしてしまっても良いのかという事である。

敷田座長

愛甲委員の指摘は、ライトな利用を先端部に近づける事にならないか。それは現状のルールの利用の心得等とバッティングしないかという事である。技術的に解決する問題であれば、部会でやっていただきたいが、現段階で懸念があれば事務局からコメントをお願いする。

事務局 環境省 山本

基本的に自然公園法における国立公園の一般的な利用を想定した歩道には位置付けられない。提案での話は、国立公園利用というより沢登りや釣りなど、あくまでも自己責任における利用であると私は認識している。

敷田座長

一般的利用に当たらないため、沢登りと同等な特別な装備も必要とする利用として考えてもらいたいという事である。この点を前提として部会設置の可否を問うて宜しいか。

知床羅臼フットパスクラブ 村田

宜しい。

知床斜里町観光協会 松田

検討する上で参考にしていただければ良い。現在、日本フットパス協会というところがあり、フットパスの概念や定義が示されている。愛甲委員の発言のように、勘違いされずに進めていくには、フットパスという名前以外のものでも利用を進めて行く方が良いかもしれない。今後、協議の中で検討していただきたい。

敷田座長

団体名がフットパスクラブなため大変申し訳ないが、今の意見は全くその通りである。そこまで含めて部会設置に入って宜しいか。

知床羅臼フットパスクラブ 村田

その通りだと私も思った。私は代表では無いため持ち帰るが、部会設置を検討していただきたい。

敷田座長

松田氏の指摘にあったように、既に国内の団体であるフットパス協会において概念の整理が済んでおり、具体的に言葉になっている。部会設置になった場合はそれを参照し、それに従ったフットパスとして設計するのか、そうではなく一般利用の遊歩道として考えるのかを整理していただきたい。

フットパスクラブから追加して何か確認をしたい事はあるか。特に無ければ部会設置の可否を問いたい。

知床羅臼フットパスクラブ 村田

特に無い。

敷田座長

第2段階の部会設置に進んで良いかという可否を問いたい。ほぼ意見が出ないため反対される方だけ意思表示をお願いします。(挙手なし)

特に無いため、本日村田氏に説明いただいたフットパスクラブの提案「知床観音岩 COST WAY フットパスコース」については、部会を設置して進めていただきたい。なお、どのような利用者を想定するのか、フットパスとして設計するのか、一般利用を含めた設計をするかというのは部会の中で明確にしていきたい。それぞれの場合によって管理の仕方が異なってくると思う。その点は注意していただきたい。

環境省から利用の心得との直接的なバッティングは無いという話があったが、いずれにしても先端部に近づく事には間違いはないため、利用に対する管理がどのようにできるかは考えていただきたい。

なお、検討部会の想定メンバーは提案通りに承認されるという事になるが、検討の経過において必要な関係者を入れたいという事であれば言っていただきたい。担当する専門家はワーキングメンバーが手伝うが、それ以外の専門家を指名されるという事であれば事務局を含めて相談していただきたい。その点について如何か。

知床羅臼フットパスクラブ 村田

もう一度簡単をお願いします。

敷田座長

この提案を部会で検討する際には専門家がフォローできるという仕組みを持っている。この中のメンバーやそれ以外の専門家の支援を得たいという事があれば、後ほどでも良いので事務局経由で相談していただきたい。事務局はそれで宜しいか。

事務局 環境省 守

承知した。検討部会の進め方については資料 2-4 に沿ってやっていただくと分かりやすい。「会議を設定して検討を進める」、「構成員に関する提案は妥当」で良いかなど、そういう部分も構成員の方々に意見を聞いていただいた方が良い。

敷田座長

確かにその通りである。省略してしまったが、資料 2-4 がチェックシートになっている。部会の構成員はそれで良いか。また、専門家の支援の問題や部会の進行の問題について注文やコメントがあれば願います。

斜里山岳会 遠山

部会の想定メンバーの地域関係団体に「知床羅臼ガイド協会」とある。これは、従来の知床ガイド協議会ではなく、羅臼に新たにできたという事だと思う。どのようなメンバーで構成されているのか教えていただきたい。

敷田座長

知床羅臼ガイド協会について説明をお願いしたいという事で宜しいか。メンバーを知りたいという事ではなく、協会の行っている事や性質の説明が欲しいという事か。

斜里山岳会 遠山

知床ガイド協議会というのがあるが、これとの関係や関連性があるかを含めて、どういう事業や活動を行っていて、メンバーや構成団体等が分かれば教えて欲しい。

知床羅臼フットパスクラブ 村田

知床ガイド協議会と直接的な関係は無い。本日は名簿を持ってきていないため、フットパスクラブの会員に知床羅臼ガイド協会の方が入っているかどうかは分からない。可能性はあると思う。

敷田座長

知床羅臼ガイド協会について詳しい方はいらっしゃるか。羅臼町遠嶋氏に願います。

羅臼町 遠嶋

知床羅臼ガイド協会について詳しく押えている訳では無い。今年、羅臼町側のガイドのメンバーが集まり会を作ったという事は、NPO 法人しれとこら・ウシの湊理事長より報告を受けている。役場に戻ればどなたがメンバーに入っているかを見せる事はできる。知床ガイド協議会とは全く別に存在していると聞いている。

敷田座長

羅臼町観光協会も関係者だと思うが、その点を補足する事があれば願います。

知床羅臼町観光協会 若林

そういう会ができた事だけ報告をいただいている。

敷田座長

斜里山岳会は如何か。存在しており活動も始まっているという事である。実態があるのであれば認めても良いが、実態が無いようであれば削除した方が良い。実態があると考えて宜しいか。

羅臼町 遠嶋

はい。会則もあり、構成員に役職も付いており実際に活動している。

敷田座長

羅臼山岳会より発言をお願いします。

羅臼山岳会 石田

山岳会としては無い。私は知床羅臼ガイド協会メンバーの一員である。代表が湊氏で私を含め7人ほどのメンバーがいる。私も全員は把握していない。まだできたばかりなため実際の活動はしていないが、会は発足している。

敷田座長

活動はまだ十分では無いが発足しているという事である。団体としてこの中に含めて良いと思うが如何か。宜しいか。

斜里山岳会 遠山

現時点では各機関から報告があった以外のものは出ないという事で良いか。活動自体はあるという理解をして良いという事か。

敷田座長

組織があり、規約もあり、代表もおられるということ。結成から間もないため活動実績がそれほど無いということ。関係者として認めて良いと座長の私は考えているが如何か。

検討部会の構成、進め方について意見や質問は無いか。ワーキングの委員の皆様は如何か。事務局はそれで良いか。心配なところはあるか。

事務局 環境省 守

部会の構成員に不足があるかどうかという事と、本日は羅臼漁業協同組合からの参加が無い
ため、そこも確認が取れていない。今後フットパスクラブで調整いただき、実際の部
会のメンバーを決めるという事で良いかを確認したい。

敷田座長

村田氏に質問する。羅臼漁業協同組合とは事前に話をされたか。

知床羅臼フットパスクラブ 村田

私もどの程度話をしているかは分からない。話はしているかもしれないが、具体的な話は
これからかもしれない。

敷田座長

まだはっきりしていないという事である。部会設置は承認されたため、部会メンバーにつ
いては早急に確認を取っていただき、事務局に報告をお願いします。なお、この場にいる知床
羅臼町観光協会と知床財団は参加していただけるか。(はい。)ありがとうございます。今後、
羅臼漁業協同組合、知床羅臼ガイド協会に確認を取り、事務局にその結果を報告していただ
きたい。部会の検討メンバーはできるだけ早い時期に事務局を通して皆さんに共有したい。
その他に確認したい事項は無いか。無ければこれで承認して議事を終了したい。

小林委員

(マイクなし)・・・の中で様々な問題点がある。これから考えたいという事が多々あ
り、私も大変判断に困った。次回以降は認識されている問題点を明確にされてから説明願
いたい。

敷田座長

小林委員から指摘があった通りである。発言からすると小林委員はこのテーマに関して
非常に詳しいという事もあるため、ワーキングの委員からは小林委員に担当していただ
けないか。

小林委員

何を担当するのか。

敷田座長

部会で検討した結果、更に専門的なフットパスの専門家を指名したいのであれば別だが、

最低限それが決まるまで専門家としての部会の指導、支援をしていただきたい。活動していただきたいという事では無い。

小林委員

承知した。フットパス協会の小川氏は以前この適正利用の委員であった。小川氏とも話し合いながら進めていきたい。フットパスの定義についての議論もあると思う。

敷田座長

それではワーキングの専門家としては小林委員に担当していただく。連絡を取っていただきたい。会議終了後に少しお話をしていただけばと思う。以上で提案についての議論を終了したい。

(注記：以上の小林委員の担当については、後日本人からお申し出があり辞退されるということであった。そのため暫定的に愛甲委員に部会担当をお願いした。)

次は実施部会からの報告について説明を順番にお願いする。最初に資料 3-1-1 赤岩地区昆布ツアーについて知床羅臼観光協会から報告をお願いする。

【議事 3. 実施部会からの報告（1）赤岩地区昆布ツアー一部会】

知床羅臼町観光協会 若林

「知床岬赤岩地区羅臼昆布エコツアー」実施状況等について説明（資料 3-1-1）

赤岩地区昆布ツアー（知床岬 399 番地上陸ツアー）資料について説明（資料 3-1-2）

赤岩地区昆布ツアー（知床岬 399 番地上陸ツアー）羅臼町民モニター参加者募集チラシについて説明

（資料 3-1-3）

敷田座長

赤岩地区昆布ツアー一部会からの報告に関して質疑応答、コメントをお願いしたい。

昨年度の利用 0 名から今シーズンは 68 名になったというように、マーケティングが功を奏して参加者も増えている。町民も参加している現状である。このツアーの二期目の承認時には様々な条件も付いている。これについて忌憚の無い意見をお願いしたい。

知床財団 山中

ツアー名は赤岩昆布ツアーだと思っていたが、知床岬 399 番地上陸ツアーという名前が変わっている。内容が変わっているのであれば説明していただきたい。

このツアーについては、昆布漁の歴史や実状を学んでもらうツアーだという事はよく分かっている。私はこのツアーの議論が始まった当初から、相泊から近い昆布番屋が集中している地域でできないのか？と発言してきた。しかし、赤岩地区は他の地域とは違っていると

聞いていた。伝統的な天日干しを中心とした昆布漁が行われており、他には無い木造の番屋があり、伝統的な漁の姿を見せるためにここで行うのだと。国立公園管理計画等で禁止されている「レクリエーション目的の動力船の上陸」を特別に認める理由として、そういう説明をされていた。

今年から赤岩地区での昆布漁は行われなくなると聞いた。番屋は引き上げても沖合では昆布は採っているであろう。しかし、それを干したり様々な製品を作ったりする活動はこの地区では行われていない。そうすると前提が違うのではないか。ツアー名変更に関連しているのかを含めて教えて欲しい。

敷田座長

山中氏からの指摘の1点目は、赤岩地区昆布ツアーから知床岬399番地上陸ツアーと名前が変わったのではないかとということ。そして、2点目は、赤岩地区では既に昆布漁が行われなくなったのは当初の説明と違いがあるのではないかとということ。これについて端的に回答をお願いしたい。

知床羅臼町観光協会 若林

ツアーの内容についてか。

敷田座長

そうである。内容の変化があったかどうかについても説明をお願いします。また、名前の問題についてだが、当初から会議でも赤岩地区昆布ツアーという名前と呼んでいる。これと違う名前になっているのではないかとのご指摘である。これは、広報用の資料の呼び方がそうになっていたため前回の会議の際に私からも提示して欲しいとお願いしていた。

知床羅臼町観光協会 若林

ツアー内容に関しては変わっていない。ツアー名の変更については、上陸を目的としているわけでは無いが、より周知しやすく、より分かりやすいという事で名前を変更している。

知床財団 山中

機械干しではなく、天日干しを中心とする昔からの昆布漁を現場で見て学習するという事は、以前からしていなかったという事なのか。

敷田座長

以前から実際の商業用の昆布漁は見学していなかったのかということである。以前から見学はしていないと思う。偶然目にする事はあったという報告を受けていた。その点について

回答をお願いします。

知床羅臼町観光協会 若林

それは先端部地区での事なのか。1日目の羅臼市街地での事なのか。

敷田座長

山中氏の質問は赤岩地区上陸地点での昆布漁見学を以前はしていたが、今はしていないのかという質問だと思う。

知床羅臼町観光協会 若林

知床岬の先端部地区では、昆布を干している現場の見学は以前よりしていない。

敷田座長

私も参加しているが、偶然見るという事はあった。しかし、それを目的として上陸するという事ではなく、以前より番屋見学がメニューになっていた。資料上もそうなっている。

知床財団 山中

この場で細かく詰めるところではないかもしれないが、それでは最初の説明と違うのではないかと思う。何故赤岩に上陸するツアーを行わなければいけないのかという理由は、「ここへ行って見なければならない伝統的なものがある。相泊付近にも沢山の昆布番屋があるが、そっちは機械干しが中心である。そして、建物も比較的新建材を使っているため、やり方も違うし建物も古い建物を使っている。それを見るためにはここに行かなければいけない。上陸しなければいけない。」と聞いていた。何か違っていているような気がするため今後検討いただきたい。

敷田座長

以前の説明と違っていているのではないかと指摘である。観光協会関係者から説明をお願いします。

知床羅臼町観光協会 平原

説明する。昨年まで赤岩地区で昆布を採っていた軒数は2軒であった。世代が変わる度に道路のある方に移り、今年から2軒が相泊から以南に来た。そのため今年から赤岩地区で昆布を干すという場面は見られなかった。

このツアーは、前日に礼文町という地区で昆布の採取から乾燥機による乾燥までを見せて、翌日に赤岩地区に行くというもの。

名称については、この番屋が個人の所有地で知床岬399番地と登記されている事から、よ

りインパクトを強めるために若干変更した。

中川委員

現在議論になっているのは「中身」と「タイトル」についてである。昆布漁を前日からしっかりと学んで素晴らしい。しかし、岬に上陸する理由として、その昆布漁を見る事、そして過去の歴史を学ぶという事であったと思う。新しく変えたタイトルによって昆布漁を学ぶという事が分かりにくくなった。内容を表していないと思うが如何か。

敷田座長

タイトルと実際の内容が一致していないのではないかとこの事である。説明をお願いする。指摘は、昆布漁が中止になったのにツアーの内容は昆布漁を体験するという事になっているのではないかと。知床羅臼町観光協会は、その点について説得力のある説明ができるか。

知床羅臼町観光協会 平原

このサブタイトルの部分が駄目だという事なのか。知床岬の歴史は羅臼昆布にありと言うサブタイトルが看板に偽りありだという事なのか。

敷田座長

質問者からの質問内容は、提案された当初は知床岬での昆布漁から学ぶという事であったのに、昆布漁が実施されていないのであれば学べないのではないかと。その点について説明を求めたいということ。実際に昆布漁が無いから学べないのか、昆布漁が無くても学ぶ事があるのかを説明していただければ答えになる。

知床羅臼町観光協会 平原

当初このツアーを実施した際から今年の春までは 2 軒が移住して操業をしていた。たまたま今年 2 軒が道路の付いている便利なところに来たということ。歴史については昆布番屋で見せているという事が主旨に反しているという事になるのか。

敷田座長

歴史を学ばせているという回答だと理解する。再承認の際に提案された昆布ツアーの実施方針では、事業の目的として「知床岬の先端部赤岩地区で行われている昔ながらの昆布漁に触れ、知床半島先端部において自然と共生しながら漁業を営んできた歴史文化を学ぶ教育目的のエコツアーである。」という説明をされている。この説明からいくと 2 名の質問は非常に妥当だと考えている。昆布漁の中止は想定外の事ではあると思うが、その状態になった時に再度検討が必要では無いのか。それとも検討の必要は無いのか。それらを含めて説明いただきたい。

説明の内容は、昆布漁が無くなった場合に内容が変更されるのか、昆布漁が無くなくても目的が変わらないという事になるのか何れかだと思う。今考えをお持ちであれば説明していただきたい。しかし、昆布漁の中止は実施者、部会としても予想していなかった事である。予想していなかった事を急に答えろと言っても難しいと思う。その場合には次回の検討会議までに再考し方針を含めて考えるという回答をいただいても結構である。即答せよという事では無いので誤解しないで欲しい。

羅臼遊漁釣り部会 野田

知床岬 399 ツアー、赤沼の昆布ツアーの船を担当している野田と申します。

知床財団からの質問だが、昆布番屋が無くなった事はツアーの内容に関係無い。現在、赤岩で行っている昆布の仕事を見せに行っている訳ではない。大正時代から建っていた番屋の歴史、この場所でやっていたというその歴史を知るために上陸するツアーである。去年までと違い昆布番屋が無くなったために内容が変わったという事ではない。

敷田座長

前回会議の承認の際に、昔ながらの昆布漁に触れという説明があり、資料としてもこれが残っているため、この点は事実だと思う。しかし、一方で予想していなかった事だが、昆布漁が先端部赤岩地区で無くなったため設定が変わったということ。それに対して今回のモニタリングを 5 年間の計画の中で変更するのか、設定が変わっても目的や内容は変わらないと説明していただくのか。決してツアーの実施者が目的を逸脱しているという事ではない。設定が変わった事についてどう対応するのかという質問である。即答できない場合は次回までに回答いただくか、検討会議終了後に関係者で相談していただき回答していただいても結構である。

知床羅臼町観光協会 平原

後日検討して次回の会議で回答したい。

敷田座長

質問者の 2 名はその手順で良いか。質問者からの質問は、赤岩地区での予想しなかった昆布漁の中止を受けて、事業の目的である先端部赤岩地区で行われている「昆布漁に触れ」という事業の実施内容と齟齬が生じているのではないかということ。しかし、承認しているツアーの内容の変更にあたるのか、それとも目的と一致しているため軽微な変更であるのかを部会の中で検討していただきたい。

中川委員

名称の問題についても検討していただきたい。昆布を学ぶ、先端部で学ぶという事で内容が変

わっていないという事であれば、名称を変更するのはどうかと思う。昆布ツアー、昆布の学習という部分が後退したように感じられる。

敷田座長

名前の点については最初から質問が出ていたため次回説明をお願いします。なお、5年間の再承認の際の条件は6つある。

1番目はこのツアーに関する羅臼町民の合意形成を図ること。

2番目は経営的な持続可能性を示していただくこと。経営的に採算が合わないツアーでは無理をしてインパクトが大きくなるという懸念からである。

3番目は1回20名最大30日という人数制限を継続すること。これについては現状でも守られており問題は無い。

4番目はモニタリングを継続すること。これについては過去の議論もあり、現場でモニタリングを続けていただければ問題は無い。

5番目は、原生自然と文化をセットとしたツアーであるので、セールス及びツアーのブランド化を行うこと。このブランド化の一環としてネーミングが位置付けられると思う。どういった合理的な説明ができるか、皆様の共感や納得が得られるかを考えていただきたい。

6番目は5年間の期限付きとすること。これについては変更無い。

以上が再承認の時の条件である。再度部会で検討し報告をお願いします。タイムリミットは次回の検討会議としたい。次回の検討会議とするのは、それまでにツアーを催行する予定が無いからである。時間の猶予をお願いしたい。時間の猶予も含めてこの場で合意していただけるか。意見が無ければ部会で検討して次回の検討会議で報告をお願いしたい。

実施部会より2番目の報告である。外国人旅行者向け情報発信の強化部会より外国人旅行者向けの情報発信について説明をお願いします。

【議事3. 実施部会からの報告（2）外国人旅行者向け情報発信の強化部会】

知床財団 寺山

「外国人旅行者向け情報発信の強化部会」部会報告について説明（資料3-2）

敷田座長

関連の報告や補足があればお願いしたい。

北海道 オホーツク総合振興局 大道

関係機関の行政関係、北海道の部分にあるように、現在、携帯トイレ利用推進ホームページの英語化に取り組んでいる。早ければ今年中、遅くとも今年度中に実施しようと思っている。

また、知床自然センターからカムイワッカに至る道道沿いに、ヒグマの生態を記載した注

意看板を今月3基設置した。以前より様々な注文があったが、英語、韓国語、中国語を含めて新しいものを設置したため追加して報告する。

敷田座長

道庁の対応について説明いただいた。前向きに対応していただきありがとうございます。他に関連して報告は無いか。

事務局 環境省 山本

道庁には様々な対応をしていただき、報告していただいたところであるが、北海道庁の事業としての観光関係には、ここに載っていないものがいろいろあると思う。例えば、web サイト作成やアプリを作って知床に関する観光の情報を発信していると思う。

北海道 オホーツク総合振興局 大道

その観光情報はホームページという事か。

事務局 環境省 山本

例えば、観光のホームページ等からの知床の情報発信があるのではないか。

北海道 オホーツク総合振興局 大道

道庁のホームページでは様々な部で様々な情報をアップしており、観光に関する詳細は私もまだ全てを把握していない。各観光地での様々な PR、見どころ等について随時発信している。

事務局 環境省 山本

資料の情報発信一覧を作成してるのは、どこでどのような事を行っているかという情報を集めた上で、俯瞰して見て、今後どういう情報発信に繋げていくか、連携を図るかを見るための基礎資料になるからだと思う。例えば、北海道の観光部署が web で情報発信しているのであれば、それは一つの重要なツールであると思う。今後皆さんが連携、検討を行うためには良い資料となるため、一覧の資料には全て挙げていただいた方が良いと思う。

敷田座長

もっともなリクエストだと思うが如何か。(大道：はい。)私もそう思う。今後、外国人向けや観光に対する情報はできる限り挙げて行きたい。

大道氏のここでの役割は、道内の他の観光地を差し置いてでも知床を優先していただくように関係者を説得すること。その点について是非忘れないようお願いする。今のようリクエストを大道氏に出すのは私も心苦しい。できれば道庁の観光関係の部署からこの会

議に同席していただくように、大道氏より最初に働きかけていただきたい。大道氏にとっても道庁にとってもメリットがあると思う。検討をお願いしたい。これはこの会議に出席されているメンバー一同からの願いでもあると思う。今回はオブザーバーという立場で運輸局からも来ていただいているが、足並みを揃えて前向きに検討をお願いしたい。

北海道 オホーツク総合振興局 大道

現在、北海道としても観光に力を入れている。全道各地、知床に関しても観光客を呼び込んでいきたいという思いはある。私からも観光関係部署に対して会議への参加を検討するように伝える。

敷田座長

この地域だけが「北海道知床世界自然遺産条例」という特別な条例を持っている。それは道庁が制定した条例である。そのため是非優遇していただくように進めていただきたい。

北海道 オホーツク総合振興局 大道

承知した。

敷田座長

寺山氏より報告があったように、情報発信は着実に前進している。当初、提案があった際は10年以内という説明になっていたが、かなりの部分で実現してきた。是非第2段階に進んでいただきたい。実質的には今回が3年目の終了になる。第2期に入るという事とほぼ同じ状況である。次回の検討会議の際には、第2ステップに入る際の方向性を提案いただきたい。これは知床財団だけでやってくれという事ではない。また、知床財団だけではこれ以上できないという回答をされても困る。今後どのように連携したら良いのか、相談をして行ったら良いのかという事も含めてお話いただきたい。

知床財団 寺山

知床財団では、できる事は第一期にある程度行い、定常的な運営状態に入ったと思う。これを次のステップに進めるためには何が適当なのかを考える時期にきていると思う。提案書では第二期という事で明記されており、次のステップに行くのかを含めて相談させていただきたい。

敷田座長

他になにかあるか。無ければ一端休憩したい。

現在3時10分であり10分間休憩して3時20分からスタートしたい。

テーブルに置いてあるお菓子は事務局の好意で用意していただいている。ご自由に食べ

ていただきたい。

【休憩】

敷田座長

議事を再開したい。次の議事は4.個別部会等からの報告である。1番目は厳冬期の知床五湖エコツアー事業である。これも二期目の再承認をされた事業である。知床斜里町観光協会より説明をお願いします。

【4. 個別部会等からの報告（1）厳冬期の知床五湖エコツアー事業】

知床斜里町観光協会 喜来

平成29年度厳冬期の知床五湖エコツアー事業実施報告について説明（資料4-1）

敷田座長

厳冬期知床五湖ツアー一部会からの報告について質問や意見はあるか。

中川委員

外国人の割合が非常に多く、利用者の半数以上というのが大きな特徴だと思う。内訳を見ると中国が8割近いという事である。これは冬期の外国人利用者の割合を反映しているのか。中国の方は体験型というようなものに特に関心が高いのか。

知床斜里町観光協会 喜来

基本的に中国の方は一年中多い。特に厳冬期のこの時期は中国の方が多いと思う。本日参加している松田自身はガイド事業を行っているため把握できていると思う。松田より報告させていただきたい。

知床斜里町観光協会 松田

この数字には若干齟齬があると思う。国籍はもう少し厳密に取る必要がある。実際の現場とは少し違うと感じている。中国の方が多いというが中国籍では無い方もいる。アメリカやカナダに移住して国籍を取っており、里帰りや旧正月に里帰りする際に日本に立ち寄る中国系の方もいる。多分その数字も入っていると思う。

敷田座長

冬期利用に関して何か質問は無いか。

私から1点質問する。今年度も自主除雪を継続すると説明をいただいた。この道路を開放せずに自主除雪でやっていけるのか、それとも試験除雪が終了し全面的に開放をするのか

というのは過去にも話題になっていた。管理やツアー一位置付けの上でも大きな問題である。望ましいのは、自主除雪を行いながらの管理であり、選択的に一般の利用者が入れない状態にするという事である。その点についての見通し、考えを聞かせてほしい。

知床斜里町観光協会 喜来

知床斜里町観光協会は、基本的に自主除雪をしながらでも事業を継続していきたいという考えを持っている。特に知床財団、環境省、斜里町と全体で協議を行う必要があると思っている。基本的には知床財団、環境省の考え方に重きをおいて進めて行く。最終的には事業者主体で協議をしながら進めていくという考えを持っている。

敷田座長

以前よりお話している通り、ここは誰でも入れる場所、設定ではない。静寂を維持しながら利用するという事になっている。その点については、開放に向けて話を進めるのではなく、自主除雪でも試験除雪であってもこれまでの状況を維持していただくのが基本である。これに関しては北海道庁が土木関係でのお考えをお持ちではないか。

北海道 オホーツク総合振興局 大道

道路管理者の立場について私がこの場で説明する事はできない。以前、試験として道路管理者で除雪を行っていた事は承知している。管理に関しては道路管理者として公平性を保つための様々な条件が加えられるような事も想定されている。この場でどうこうという事は言えないが、道路管理者と様々な調整をしながら進めて行くのが良いと思っている。

敷田座長

北海道道についての事であり、北海道の組織の一部になるため是非仲介していただきたい。望ましいのは現在の静寂性を保ったままツアーを実施できること。資源の少ない冬期に資源を開発できたという非常に大きい意味のあるツアーである。今の状態を維持する事がベストである事は前回までの議論の通りである。是非その調整をお願いしたい。今年は自主除雪、制約ありでも進めるという事になってはいるが、来年度のツアーに対して次回までに何らかの報告をいただけるか。

北海道 オホーツク総合振興局 大道

今後、道路の管理部門と話をする。どの程度でその判断を皆様に説明できるかについては、この場では言えないが伝えていく。昔からの様々な利用も継続しており、その点を考慮してもらいながら話を進めるよう申し伝えておく。

敷田座長

平成 30 年度についてはこれまで通りで行う事になっている。平成 31 年度以降にどうする
という問題であり、実際には 1 年の猶予はある。しかし、来年 2 月の次回検討会議までに
見通しが分かっている方が先を読めるため協力をお願いする。

北海道 オホーツク総合振興局 大道
承知した。

敷田座長

他に関連して質問等はあるか。無ければ次の報告に進む。2 番目資料 4-2 はカムイワッカ
地区における取組の進捗状況について事務局より説明をお願いする。

【4. 個別部会等からの報告（2）カムイワッカ地区における取組】

斜里町 玉置

カムイワッカ地区における取組の進捗状況について説明（資料 4-2）

斜里町 増田

資料に記載されていないため口頭で補足する。現在、環境省により知床国立公園の公園計
画の見直しに向けた点検作業が行われている。それに関連して斜里町より提案している事
がある。ホロベツや知床峠など利用の多い場所については、国立公園内で園地指定されてい
る。カムイワッカについてはカムイワッカ園地というものがあるが、それは道道の落石に関
係して通行止めとなっている先の知床大橋側になる。園地指定されている場所は実際に年
間 1 万人近くの利用がある場所ではなく違う場所が指定されている。現在実際に利用され
ている湯の沢一の滝より道道の辺りは園地指定がされていない。斜里町としては、利用の実
態と公園計画が合致するように園地を拡張し、現在実際に利用がある場所を含めた園地指
定をお願いしている。

敷田座長

知床五湖及びウトロ海域の報告も一括して行ったあと質疑にしたいと思うが宜しいか。
続いて知床五湖地区における取り組みの進捗について報告をお願いする。

【4. 個別部会等からの報告（3）知床五湖地区における取組】

【4. 個別部会等からの報告（4）ウトロ海域における取組】

事務局 環境省 山本

知床五湖地区における取組の進捗状況について説明（資料 4-3）

ウトロ海域における取組の進捗状況について説明（資料 4-4）

敷田座長

3件の報告についてまとめて質疑応答したい。意見コメントがあればお願いします。

小林委員

カムイワッカ地区の説明で、3月に大雨が降ったため滝の中の様子が変わっているという説明があった。河道であるため常に変動のある場所だと思う。利用の開始前には何らかの点検等を実施した上で公的な利用を開始しているのか。

斜里町 増田

利用前に現地の状況確認を行っている。

敷田座長

宜しいか。(小林委員：はい。) 他に関連してあるか。他の2件についても無いか。

ウトロ海域における取り組みについては、山本氏より説明をいただいた通り、進捗があり安定した事業である。資料裏面の海のハンドブックは皆さんで工夫して作った冊子だが、売上も非常に好調で収入に繋がっており事業としても安定している。本日はこの取り組みを山本氏から報告していただいた。当事者の皆様から何か提案があれば聞きたい。

知床小型観光船協議会 神尾

知床小型観光船協議会事務局の神尾と申します。同時に、知床ウトロ海域環境保全協議会にも携わっている。知床ウトロ海域環境保全協議会より、この検討会議に出席させていただく事を皆さんに賛同していただきたい。この場を借りて提案させていただく。

敷田座長

補足する。資料4-4裏面を見ると知床ウトロ海域環境保全協議会と書いてあり、この協議会が実際の推進主体である。現在、この会議には知床小型観光船協議会として神尾氏が出席されている。事業実施者の環境省が宜しければ、知床ウトロ海域環境保全協議会としてテーブルに付いていただく事が妥当なのではないか。活動実態もあり発言もしていただけると思う。これは環境省に承諾していただければ問題無いと思う。

事務局 環境省 山本

ウトロ海域の活動は、実際に知床ウトロ海域環境保全協議会として様々な取り組みをしている。地域関係団体として入っていただければ、こちらとしてもありがたい。

知床小型観光船協議会 神尾

ありがとうございます。

敷田座長

出席に関しては遠方へ来ていただく事になる場合もある。このハンドブックの売上は非常に大きいので、そこから積極的に全体の会への参加旅費等を支出していただいても良いと思う。

知床小型観光船協議会 神尾

そのように取り組んでいきたい。

敷田座長

科学委員会でもケイマフリへの関心は非常に高い。質問が出る事もあるため、場合によっては科学委員会へもオブザーバーとして参加していただく事も考えていただきたい。

知床小型観光船協議会 神尾

知床ウトロ海域保全協議会で検討し、進んで参加したい。

敷田座長

他に質問は無いか。無ければ実施部会からの4件の報告について議事を終了したい。次にその他の議事に入る。

議事5. その他(1) 長期モニタリング計画の見直しについてだが、座長から1点だけ説明させていただき承認いただきたい。本日午前中に専門家ワーキンググループのメンバーでワーキンググループ会議を開いた。そこでの議論では、主に愛甲先生から意見があった。モニタリングでは、検討会議に出席されている事業者の方から利用状況のデータを提供していただいている。これについては利害関係者である事業者の皆さんに入って検討いただくよりも、ワーキンググループの専門家と事務局で検討し、その検討結果を皆さんに示した方が客観性があるので良いのではないかという事であった。座長としては非常に真つ当な考え方だと思う。利害関係者を前にして色々な評価について言及するのは難しいからである。今後、長期モニタリングについては、ワーキンググループで検討する。最終的な結論は、モニタリングを担当している管理者、事務局になる。本日資料を配布しているが、資料は棄却していただきワーキンググループに判断を委ねていただいて宜しいか。これについて意見や質問があればお願いします。事務局から補足はあるか。特に無ければ宜しいか。

この長期モニタリングというのは1年2年の話ではなく、10年以上の長い期間に渡って環境や利用の状況をモニタリングしていくということである。具体的には、これまで利用者数をカウントしていたが、利用者数が急激に増えた場合には、利用圧が高まったという事で注目するというような判断をしてきた。例えば、羅臼の観光船の利用人数が非常に増えてい

るので、利用圧の増加傾向があると言ってコメントしてきた。利用の関係者が入った席で議論するよりも専門家で 1 度答えを出し、それを事務局が判断材料にした方が良いという考えである。今後はこの議事についてワーキンググループに委ねたいと思う。なお、ワーキンググループはどなたでもオブザーバーとして傍聴していただける。どのような議論をしているかを聞いていただく事ができる。特に異議は無いので長期モニタリングについてはワーキンググループに委ねるといふ事で決定したい。

次の議題に移りたい。第 41 回世界遺産委員会決議の対応について事務局から説明をお願いします。

【議事 5. その他（2）第 41 回世界遺産委員会決議の対応について】

事務局 環境省 高辻

第 41 回世界遺産委員会決議に係る対応について説明（資料 5-2）

敷田座長

今の内容について質問やコメントがあればお願いします。補足でも結構である。

特に無ければ今の内容で承認いただきたい。以上でその他の議題（1）（2）について終了したい。

このままの状態で行くと終了予定が 4 時 10 分頃となる。お手元のアンケートに記入を始めていただいて結構である。アンケートというよりもコメント用紙であるため協力をお願いしたい。中川委員より発言がある。

【議事 5. その他（3）知床五湖の外来種について】

中川委員

知床五湖一湖の外来種である園芸スイレンの件である。夏にメーリングリストにも投稿した。園芸スイレンは非常に大きく広がっている。開拓者が 50、60 年前に入れたものだと思うが、在来のネムロコウホネやヒルムシロなどはかなり大きな影響を受けていると思う。これは陸上生態系ワーキングのテーマなのかもしれない。しかし、エコツーリズム関連として、価値の問題や良質な自然体験という点では問題になるのではないかと。特に高架木道終点の知床五湖展望台、連山を前にして第一湖が広がっている場所で、夏は白い花が沢山咲いている。ある意味では美しい光景にはなっているが、これは知床の自然の姿では無い。ガイドの方がそれについて説明をされていけば良いのだが、誤解した自然観を持って帰られるという事にも繋がると思う。この辺はエコツーリズム検討会議としてどうするべきか、意見交換の場があっても良いのではないかと。思う。

陸上生態系ワーキングや科学委員会で今後どうするのかは重要な問題だと思う。外来種の中でもランクの高い外来種（重点対策外来種）になっている。

敷田座長

一湖のスイレンの問題は規模も大きく簡単に誰かがすぐえば良いという事では無いと思う。具体的にどうするか事務局から即答できる事があればお願いします。即答できなければ後日相談を進めるという事で良い。

事務局 環境省 山本

即答はできない。開拓により入った歴史があり、以前からそこにスイレンは存在している。知床五湖の高架木道の案内版には説明書きを表示している。それらも踏まえた上で、今後どうしていくかという検討が必要だと感じている。

中川委員

以前からあったのは確かだが、あまり目立たなかった。現在は非常に広がっているため、在来種への影響が心配なため対策が必要だと思う。

敷田座長

知床五湖の利用のあり方協議会の中で検討はできるか。

事務局 環境省 山本

知床五湖の利用のあり方協議会では植物の専門家がいらない。科学委員会で示していただけるとありがたい。専門家に助言をもらった上で在来種のために全部取り除くのか、開拓の歴史を踏まえたものとして残すのかを検討していきたい。

敷田座長

専門家の意見を聞き、可能であれば、知床五湖に関する組織を活用していただく方が新しい組織や団体を作るよりも効果的、効率的だと思う。中川委員宜しいか。(中川委員:はい。)

次に松田氏、そして知床財団からの話題提供をお願いします。

【議事5. その他(4) ヒグマの問題について】

知床斜里町観光協会 松田

知床斜里町観光協会としてではなく個人的な意見として、行政の方々に協議していただきたい事が2点ある。1点目は、ヒグマに関する事である。ヒグマの行動に変化があり、観光客のヒグマに対する行動にも変化がある。個人的にはかなり危惧する状況だと思う。一部では事故やトラブル等も出てきている。

ここでは時間は無いため協議をして欲しいという事ではなく、今後行政でその枠組みを作り、問題解決に向かって協議を進めて行かなければ、いずれ大きな問題になると思う。エコツーリズムを推進する上でも大きな障害になってくると思う。是非協議をお願いしたい。

もう1点は、実際に行政の方々に話をしても、法律が無いから注意ができないという話が出てきている。利用に対しては、エコツーリズム推進法を使って全体構想を作り、地域でルールを作る事ができるはずである。法的な罰則は無いが、法的なバックグラウンドの下で、ある程度強制的に指導できるものになると思う。この辺についても協議していただきたい。現状では、ガイドのほとんどが白タク行為を行っている。これは法律違反だが、エコツーリズム推進法ではこの白タク行為も解決できるようになっている。法律的に枠組みを付ければ解決できる部分は、行政の方々が中心となって意見を取りまとめ、推進していただきたい。よろしくお願いします。

敷田座長

松田氏より2点のご提案があった。1点目はヒグマの関連。2点目はエコツーリズム推進法の関連である。知床財団からの話題提供はヒグマに関連する事だと思う。エコツーリズム推進法に関して事務局より今の段階でコメントがあればお願いします。

事務局 環境省 山本

エコツーリズム推進法を活用できれば法律に位置付けられる。皆さんが保証の無いルールだと言っている事も、正確な位置付けとなり安定するのではないか。地元自治体や観光事業者などが主体となるため、地元で調整しながら進められれば良いと思う。

先程のワーキングで愛甲委員の発言に、この会議で認められたツアーをPRできるような、提案者へのメリットがあれば良いという話があった。エコツーリズム推進法を活用する事でそれに関連したメリットもある。例えば、エコツーリズム推進法に基づくツアーは、ツーリズムエキスポで東京ビックサイト等でPRを行う事ができる。また、環境省のホームページでのツアーを紹介、パンフレットを作成し全国に配布するというような事も行われている。

敷田座長

松田氏は今の回答に関して追加する発言はあるか。

これは私からである。エコツーリズム推進法は2008年に施行された法律だが、定義が非常に厳しい。この中のエコツーリズムというのはガイド付きのツーリズムで、一般のツーリズムツアーを対象としてはいない。

斜里側においては殆どが一般の観光であるという認識であるため、全面的に適用される事は難しいと思う。しかし、この法律に定義されているエコツーリズムやエコツアーに該当するものがあれば適用できる。

羅臼側においては、ほぼガイドが付いている形態でツアーを実施している。このエコツーリズム推進法を適応するには相応しい地域だと思う。

しかし、山本氏の説明にあったように、地域からの発意が必要である。可能であれば、こ

ういう場でエコツーリズム推進法の適用を受ける提案をしていただいき前に進めていただく事は現実的な選択肢の一つである。それを目的にするのではなく、この目的のためにエコツーリズム推進法を使った方が良いからという選択肢はある。皆様の中から提案をいただいても良い。ワーキング委員からの提案や事務局からの提案もできるが検討しても良いと思う。

次にヒグマ関連について知床財団より話題提供していただく。

知床財団 寺山

本日、皆様に「知床半島のヒグマの現状」という雑誌の記事を配布した。この検討会議参加者の半数程度が占める主に行政のメーリングリストにおいて、この話題についての議論が大変活発に行われている。この件に関しては松田氏の指摘通り、公園内のヒグマはもはや抜き差しならない状況になっている。

この記事の内容は、まさに現在松田氏が活動されている知床国立公園内の状況である。これまで、国立公園内でヒグマの人慣れが進み、それによる人身事故の可能性が増えている。または、それによるヒグマの捕殺が進み個体群の維持に警鐘を鳴らさなければいけない状況である。利用者の利用、良い利用というものが制限されるのではないかという事が懸念されている状況である。

皆さんは現時点での斜里町におけるヒグマの目撃件数は何件程度だと思うだろうか。様々な所で公表しているが、現時点で 1413 件である。この 10 年ほどは年間 800 件程度だと説明していた。これが突発的なものかどうかは分からない。しかし、1,000 件を超える年が複数出てきている。1,413 件の内、883 件が幌別岩尾別地区である。知床自然センターおよび幌別川から知床五湖間で一般観光客が頻繁に利用する箇所において 883 件の目撃がある。今のところ事故は起きていないが、一般観光客が目視できる状況で 50m 以内、場合によっては 5m という距離での遭遇が 883 件という状態である。

ヒグマに対しては DNA 解析等の様々な調査が進んでいる。傾向としては人慣れしたヒグマが早死にするという可能性が工学的にも出ている。この記事では、これまで大丈夫であったからという考え方は通用しないという危惧に関して述べている。現場でガイドをされている松田氏の実感とほぼ揃っていると思う。

ヒグマの状況が変化していく中で、その変化についていけない人間社会を変えるべき時期がきているという提言がある。ヒグマ管理計画での議論でも、人側のコントロールをすべきでないかという話が出ている。科学委員会のメーリングリストでかなり話題になっており、具体的な制度計画に踏み込むべきだという議論になっている。

そういう事に関して、民間の方、メーリングリストに入っていない方は分からないと思ったため、この記事の資料として配布した。時を同じくして松田氏からも同じ危機感が現場でもあるという発言をいただいた。行政の皆様、会議参加の皆様には、このような危機に関して共有いただきたい。

知床財団 山中

補足する。こういう議論はこれまでも何度か繰り返されているが、これまで以上に深刻な状況に陥っている。同じような状況は反面教師として既にたくさん事例がある。北米のヒグマやクロクマが生息しているような国立公園で、かつてクマへの接近や餌やり、ゴミの放置が野放図に行われた結果、血に塗られた悲惨な事故が多数起きた歴史がある。そして、それに対する対応策として多種多様な工夫がされており、ある程度の成功を収めている。習うべき前例がたくさんある。

我々は、野放図にはできない。「餌をあげないでください。」「ゴミを捨てないでください。」「釣り人やカメラマンに「ヒグマに近づかないでください。」と様々な事をお願いしている。しかし、ゆっくりとした進行であるが、確実に悲惨な事故が勃発するところまで近づいている事は間違いない。これは議事録に残しておいてほしい。この状態のまま行くと、必ず日本全国や世界的なニュースになるような大事故が起きる。これはもう間違いない。

そういう状況だから「ヒグマを全部殺す」や「人を一切入れない」というようになってはいけないと思う。カメラマンや観光客の皆さんもヒグマを見て喜んでいる。これは国立公園として否定するものではない。知床の自然を本当に象徴するようなものを見に来て、皆さんがそれを喜んでいる。

しかし、その方法は工夫する必要がある。「人馴れしたヒグマは結局殺される運命になる」、「そして事故も起きるかもしれない」、そして管理側も大変なエネルギーを使ってクマの追い払いなどに取り組み、クマを見たがる公園利用者と口論になるなど大変な苦勞をしても問題が改善しない。悪い方へ悪い方へどんどん進んで行っているのは明らかである。これは利用者や管理側、ヒグマにとっても、誰もが幸せにならない方向である。

何か担保のあるルールを作らなければいけないというのは、間違いのない事だと思う。

方法は様々な事があると思う。現在のお願いベースで対策している状態では限界である。いくらお願いしても話を聞いてくれない人達が滅茶苦茶な事をやる。ヒグマに説明したところで分かってくれるわけではない。どんどん人間へ接近する。このような状態を放置する事はもうできない。そういう限界の断崖絶壁の際まで来ている。

敷田座長

非常に重要な問題である事は十分伝わったと思う。

知床羅臼観光船協議会 長谷川

山中氏の意見に同感である。私は皆様もご承知の通り、船にばかり乗ってきた。先端部で子供の頃から生活していたが、ヒグマは見る生き物などではなかった。ところが最近はどうもエスカレートしている。トレッカーとの間でいつか大きい事故が起きる。餌の味を覚えトレッカーの野営キャンプのテントを破く等、何か大きな事故が起きると思う。

人の居る場所では駆除するというように、人の居る場所との区別をきちんとしなかった結果である。ゴム弾で打ったぐらいでは学習してまた来る。ここには100回出てきたヒグマがいると書いてあるが、それは当たり前の話である。きちんと住み分けをする。

知床五湖ではヒグマがいると入れない。ヒグマがいなくなったら入る。というような方法で管理しているが、ある動物関係のスペシャリストが「知床は人を入れたいのか、入れたくないのか」、「本当に見せたいのであれば、我々ならヒグマを追い払ってでもそこを人が入れるようにしてしまう」と言っていた。これまでのように曖昧なやり方では、山中氏の発言のように絶対大きな事故が起こる。

明治、大正期に北海道であったような悲惨な事故が起きないとも限らない。これは、ワシやツルに餌をやるというものは大きく違う。利用者が怪我をすれば地域全体のマイナスイメージにもなる重大な案件である。

我々海に携わっている人間も、ヒグマが増えて海岸線にいる事については危惧している。羅臼側では年間100人程度は岬へ行くトレッカーがいる。昔、ライダーが多い時は300人を超えていた。少なくなったとはいえ、トレッカーが野営しているところで甚大な事故が起きる可能性は今後出てくると思う。このように起ってはいけない事故について、密に深く掘り下げて議論していった方が良い。一度事故が起きたら大変な事である。本当に大きなニュースになる。岩尾別等はマスが上がるのだから同じような事だ。

敷田座長

ヒグマの状態が非常に危機的な状況であり、必要な対策が迫られているという事は共有できていると思う。これまでの意見にあったように、どういう対策を講じるか、またどのような状態にするかというのは一致していないと感じた方もいると思う。間野委員より専門家の一人として発言をお願いします。

間野委員

知床は自然公園の管理でヒグマをできるだけ自然の状態を保ち、人間もあまり干渉しないというようなやり方で対応してきた。ヒグマが人間に順化し、順化したヒグマに対して人間が適切に対応できずに変化してきた。このような状況は、既に前例がたくさんある。真剣に危険な事態を回避する事を考えるのであれば、どこかでその対策を取らなければいけない。

ヒグマの行動を変えさせる事は期待できない。自然は人間がコントロールする事はできない。この問題を解決するためには、人間の行動規制を適切に行う必要がある。個人のマナーや自覚を期待しては上手くいかない。具体的には人間の行動規制、地域、行動内容、人数、そういう軸を作る事が望まれる。実際にそういう事で軋轢の回避や個体群の保護の両立に成功している事例があり、それを行わなかった事で失敗した事例がある。

私は北海道で知床以外の地域にも関わっているが、見込みのない事はするべきでは無い。

実効性のある人間行動の規制を具体化、明確にしていく必要がある。その際に重要であるのは、知床世界自然遺産地域内でヒグマを観察する機会がある現状について我々はどう評価するのかということ。

昔はそれほど見なかったという意見があった。人間が行ったらヒグマはどこにも見えないような、非常に臆病にヒグマが逃げ回っているような状態、昔のような状態に戻す事が地元にとって望ましい事なのか。また、訪問者にとっても良いのか。世界遺産の中で人間を見ても悠々と活動しているヒグマを安全に観察できる事を担保する必要があるのか。その辺が明確で無い。

安全な野外活動を確保し、ヒグマによる危険性を確実に回避するという事は、全ての野外活動の基本だと私は思う。エコツーリズムや適正利用には、ヒグマは必ずどこかに関わってくる問題であり、今後の方針を立てる上ではヒグマの位置付けについて特出しして評価し直すという事が必要である。

もう一度言う。ヒグマの順化は確実に進行する。人間がいる限り人間とヒグマの接触がある限り確実に進行する。その順化を踏まえた上でどのように人間が上手く対応するかという管理の考え方にしなければ先は見えない。私の知っている知識と経験から、ここではっきり申し上げる。

愛甲委員

私共で昨年行った外国人へのアンケートでは、ヒグマとの距離についてどの程度が適切かという調査を行った。一昨年、日本人に対して行ったアンケート結果と見比べた。外国人はヒグマを近い距離で見ることに対する抵抗感が日本人と比較して緩い。

今後、外国人観光客が増加する現状でヒグマの行動にも変化があると思うが、訪れる人側の意識も変わっているという状況がある。

先程からの意見で、注意をしても対応してくれない人も存在するという事では、対策、対応、お願い、情報発信の内容も少し変えていく必要があり、場合によってはアクセスをコントロールするというのも選択肢の一つとして議論していったら良いと思う。

特に車道沿線や釣り場に対する様々な対応を行わなければならない、対応するメニューは管理計画を議論する上で既に挙がっている。

しかし、項目全てをきちんと行えているかと言えば、議論もしていない様なアイデアが書かれていたりする。きちんと行われているかというモニタリングを行いながら精査していく必要があると思う。

敷田座長

関連して意見やコメントは無いか。深刻な雰囲気での発言がしにくいかもしれないが、問題の内容の深刻性とは別に意見をお願いする。会議時間を若干延長するがよろしく願います。

中川委員

切羽詰まった状態というのは皆さんも認識され私も理解した。早急に工程表を作成して対応の期限を作るしかないのではないかと。合意しなければならない部分は何なのか。見せるのかどうかという発言もあったが、それを早急に決定した上で対策を進める工程表を作る必要があるのではないかと。

敷田座長

皆さんの表明の通りである。全てではないが私も現場で様々な事を見聞きしている。その上で座長私から申し上げられる事は、非常に危機的な状態にあるという一方で、専門家としての対応も必要なところである。感情的になって、「危ないから何とかしろ」という事でも無い。

エコツーリズム検討会議の枠組みで可能な事は、提案制度の中で具体的な検討をする事である。本日提案が1件あったが、例えばこの場で提案をしていただき、部会を作り1年以内に具体的な対策を取るという話を進めて早急に対策を行うという事は不可能では無いと思う。皆さんの合意があればできると思う。

一方、山中氏の発言にあったように、観光客もヒグマを見るという事を求めている。そういう現状がありながら地域では住民が生活している。相反した利益を考える場合には、解決後はどこへたどり着くのかというのを合意してから解決手段を選択する必要がある。解決手段だけを手に入れば良いと言うのは、銃さえ手に入れば解決するという問題と一緒にある。そのため、検討部会を作って、どのような状態にヒグマと人間の環境を設定するのか、それからどのような手段で具体的にコントロールするのか。それを各関係機関、関係の皆様が持てる資源を総動員するという合意さえできれば話は進められると思う。

一方、この世界遺産の管理にはエゾシカ・ヒグマワーキンググループがあり、そちらでも検討を行っている。そちらは主に資源側、生物関係の方々と構成されており、利害関係者が入った場では無い。先程からの発言内容から言えば、この会議の場で検討する方が妥当だと個人的には考えている。皆様の決断次第である。決断されないという事であれば、座長の私から部会設定を求めても良いと思っている。「部会設置をする必要は無い。」「もっと別な場で検討する。」「危機感の共有だけで良い。」という事であれば結構である。私は地域外から来ている専門家であるため、当事者の発言の方が、ウエイトが大きい。お決めいただいて結構である。

安田所長

危機感私にも全く同感であるし、皆さんも同じだと思う。誰かがどこかでいつかと言っている場合ではない。この場にいる皆さんは全て関係者だと思う。国立公園であるため環境省も加わるが、国の問題であると同時に地域の問題でもある。地域の価値観や評価、生活に関

わる問題だと思う。

そういう事を議論する場として知床ヒグマ対策連絡会議というものがある。その場で地域の方々と一緒になって検討していくという事を先ずやるべきだと思う。11月に開催する事が決まっているため、それに向けてスピーディーに会議を進めていく事が現実的に考えられる。

敷田座長

具体的な検討の場はあり、別途そちらで議論できるという事である。これ以上、会議時間の延長は難しいため会議は終了させたいと思っている。どんな状態で終了されるかは、皆さん関係者、当事者でもあるため皆さん次第という事になる。決して突き放しているわけではない。ここでワンステップを取るのか、安田所長の提案通り11月の知床ヒグマ対策連絡会議で議論する事とするのか、この場で決められる事だと思う。決めて終了したい。知床財団から具体的な提案をいただき進めようという事を言うていただいても構わない。

知床斜里町観光協会 松田

どういう会議で検討するのが良いかという意見では無い。専門家だけではなく利用者側、民間側も議論には入れていただきたいということ。ヒグマとの付き合い方は次のステージに入っており、最終的には人間側が覚悟を決めてどう行動して行くかという事になる。地域住民を含めた考え方、行動が一緒にならなければこの問題は解決しない。できるだけ民間、地域住民も入れて議論していただきたい。

敷田座長

もっともな意見であり否定する人はこの会場にはいないと思う。具体的にはその場をいつ作るのか。皆さんが緊急の問題であると認識しているならば明日から話を始めても良い。座長としては、それを決めるべきではないかというのが提案である。決めないという意見もあっても良いし、安田所長の発言のように用意されている場での議論という話もある。この場で決めて散会したい。

事務局 環境省 山本

知床ヒグマ対策連絡会議等を設定する方向での考えはあるが、知床には北海道知床世界自然遺産条例というのがある。第10条では、地域の意見反映等の場の設定は北海道が行うという事も書いてある。第10条、第11条等に沿った場の設定というのも良いのではないかと。様々な場があると思うため検討いただきたい。

敷田座長

「北海道知床世界自然遺産条例」という選択肢もある。複数の選択肢がある中でどういう

選択をするかということ。

中川委員

エゾシカ・ヒグマワーキングや北海道条例でやるかの枠組み、どこが音頭を取るかは別に
して、利用者側の問題であり、エコツーリズムワーキングメンバーが集まっているといった
点からも、ここでの議論は重要だと思う。

斜里町 増田

ヒグマに関しては様々な枠組みがあると思う。皆さんそれぞれで関わっているところと
関わっていないところがあると思う。その体制をどうするかというのは、ここだけでも決めら
れないのではないかな。

知床ヒグマ対策連絡会議のメンバーは、様々な施策を行う行政の集まりである。そこに地
域住民は入っていない。知床ヒグマ対策連絡会議は、行政のそれぞれの機関が何を行うかを
調整する会議である。どういう組織でそれを行うかは一度整理する必要があるのではない
か。このワーキングが良いのか、他の所が良いのか。また、乱立して結局何処がやっている
のか良く分からないというのも困る。

敷田座長

私も賛成である。この場で決めるという事ではなく、その場を設定した方が良いという事
についての合意はできるはずである。その場についての条件は、松田氏の発言のように利用
者、地域住民が入るということ。それが提案されたという事で部会として話を進め、別の協
議会と名前を兼ねても何ら問題にはならないと思う。

エゾシカ・ヒグマワーキンググループとの関係も整理する必要があると思う。仮に部会と
呼ぶというだけで、新しい場には知床ヒグマ対策連絡会議のメンバーに地域住民を入れて
も良いと思う。具体的にその場を作る。ここで皆さんが部会設定を承認いただければ具体的
なアクションになると思う。

最終的にヒグマと人間の関係をどのような状態にするかを合意していただきたい。また、
それに対するアプローチ、手段を具体的に決めていただきたい。緊急性や皆さんからの発言
に従えば1年以内、次の観光シーズンまでに決められれば良いと思う。座長からの提案であ
る。座長からの提案というのは、このエコツーリズム検討会議の枠組みの中での提案になる。

斜里町 増田

羅臼町と斜里町は、国立公園内、観光の事だけではなく、地域住民や旅行者も含めて危機
管理部分の責任がある。当然、地域の考え方というのが大切だが、地域だけで解決するには
厳しい部分も様々ある。地域だけでは決められない事や実行力を含めた問題対応ができな
い部分があるため、環境省、北海道も一緒になって活動するという姿勢は示していただき

い。

敷田座長

その考えは重要だと思う。想定する部会メンバーは地域住民の他、斜里町、羅臼町、知床財団、管理者という事になると思う。その関係者で部会をとりあえず作っていただき、他にどんなメンバーに参加してもらうかを、部会スタート時に相談していただきたい。これは座長からの提案である。

知床財団 山中

その提案には賛成である。斜里町から、国も北海道も入ってもらわなければ地域だけでは決めかねるという発言があった。国立公園内、世界遺産地域内にヒグマが高密度で生息している事により様々な問題が起きており、その問題を公園利用者が助長してしまっている。残念ながらそういう実態は間違いなくある。皆さんで協力して何かやりましょうと言うレベルの部分もあるが、公園利用の仕組みとして公的な利用のシステムを根底から考え直さなければ駄目な部分があると思う。クマ問題を改善できた見習うべき前例はたくさんある。それらは全て「お願いベース」、「相談ベース」ではなく、仕組みを変えたものである。

また、いくら公園利用の仕組みができて公園利用者とヒグマの関係が良い状態になったとしても、公園からはみ出していくヒグマの数は、他の地域と比較しても知床の場合はかなり多くなるのは間違いない。それに対しては地域住民レベルで本気になって考えなければいけない。

今年は犬が喰われたり、山羊が持って行かれたりというような緊急性の高い事件があった。地域住民レベルでは様々な事が起きている。我々の広報努力がまだまだ足りないという事もあると思う。その辺を何とかするためには、地域レベルで真剣にどうするのか考えて行く。特にその国立公園、世界遺産がある限り、必ずはみ出してくるヒグマから地域社会を防衛する仕組みや近づけないようにする仕組み、本気で自身の問題として考える仕組み、場が必要だと思う。公園利用とはまた別な場での議論を本気で始めなければいけないと思う。

敷田座長

地域住民との関係は重要であり、遺産地域外の方も含めた話もまた重要である。中川氏からはこの場で検討するという発言があり、山中氏からの提案もあった。5者もしくは7者ですぐに話をスタートしていただき、次の観光シーズンまでに一定の共有をしていただく事が私からの提案である。

山中氏の発言で、どういう状態にするのかというのは個人的な意見であると思うし、それを全面的に採用するのか、ヒグマとの関係のあり方をこの公園、世界遺産内で実現するというのは最初に皆さんで相談をしていただきたいという事が1点。

それに従い具体的な対策を法律改正も含めて考え、今回は真剣に決着を付けていただきたいというのが座長からの部会設置時の条件である。誰かがお亡くなりになるという事を予想されている方が多いのであれば、これくらいの事をしなければ、ここの存在意義は無いと思う。メーリングリストで議論を続けるよりも、会って具体的な話をする方が建設的だと思う。

知床羅臼町観光船協議会 長谷川

進めて良いのではないか。

敷田座長

最初は少人数で私が申し上げた組織で集まっていただき、仮に部会と呼ぶが、具体的な部会推進、会議の進め方を決めていただく。その際には、①最終的な状態を皆さんで合意していただく。②その合意ができた上で具体的な対策を決定していただく。そして、③として付帯して私から一つだけ申し上げる。「過去に誰が何をしなかったから。」「お前が何をしなかったからこうなった。」という事は一切不問にするという3つの条件で話を進めていただきたいというのが3点目である。

この3点を条件として部会を作っただけであればと思う。皆さんが合意をすれば部会を作り話は進められる。エコツーリズム検討会議の枠組みで話ができる事はここまでだと思う。

斜里山岳会 遠山

座長にまとめてもらって良いのではないか。座長の提案でまとめましょう。

間野委員

11月にエゾシカ・ヒグマワーキング会議があるが、そこでは非常に不確実性の高い個体群のサイズやどのようにそれを把握するか、モニタリングを更に詰めていくという事が検討のメインになっていたと思う。現行の管理計画の目標というのは、積極的にヒグマの価値をどのように社会で共有した上で管理をするかという事より、絶滅回避と軋轢の最小化という事がメインになっている。それ以外の価値についての積極的に評価するということはまだ非常に薄れていた。

現在の状況というのは、命に関わるような喫緊の課題に対して、実効性のある具体的な管理体制や方策をどうするかという話である。エゾシカ・ヒグマワーキングの委員にもこの状況を共有した上で、管理計画の中でどう位置付けるのかという事をもう一度周知しなければ齟齬が生じて上手くいかないような気がする。喫緊の課題を考えた時に、現行の管理計画の下でどのように対応するのかという事についても考えなければいけない。私もどうしたら良いかをここで具体的には申し上げられないが、整理した上で委員にもコミュニケーション

ョンする必要があると思う。

敷田座長

エゾシカ・ヒグマのワーキングでも話が進んでいるため、そちらとの調整をした上でという発言である。調整については事務局に願います。

安田所長

新しく部会を乱立させるのではなく、知床ヒグマ対策連絡会議で検討したい。母体に座長から提案のあった関係者、関係機関に入っただき、できるだけ早い時期に開催するという事で進めたい。

敷田座長

安田所長から提案があつたが如何か。名前の問題ではなく実質的に誰がメンバーになり、どのようなプロセスで行くかという事が明確になれば良いと思う。安田所長には、これまでの行政の会議とは性質が変わるという事を承知願う。宜しいか。異議はあるか。特に無ければ今の枠組みを変更してヒグマ対策を具体的に進めていただきたい。

安田所長

検討してそういう方向で議論を進めたい。

敷田座長

新たに部会を作るのは手間がかかるため、それを部会と名乗っていただければ良いだけだと思ふ。但し、私から申し上げる条件は、将来どのような終着点にするのかについて先ず話をしていただきたい。その合意の下で対策を具体的に検討していただきたい。この順番を逆にして最初に対策ありきという事をやらないでいただきたい。

皆さんの気持ちと考え方が一つひとつあれば、将来目標の合意はそう手間はかからないはずである。それがずれているのに、同床異夢のような対策はしないでいただきたいというのが私からの願ひである。あと過去の事は不問にしていただきたい。過去にお互いが何をしてくて、また何をしなかったという事を言い合つていてもきりが無い。それは一切せずに将来の方向に向かって検討していただきたい。

斜里町 増田

そういう場が必要だという事は合意されていると思う。しかし、皆さんご存知ないと思うが、知床ヒグマ対策連絡会議には標津町などもメンバーであり、この枠組みとは少し違う部分もある。この場の合意は、どういう形であれ検討する場を設定するという事で良いか。

敷田座長

そうである。安田所長に確認する。地元や観光関係者の方が入る必要があるという意見があったため、現在ある会議を利用して行うという事で良いか。

安田所長

そう考える。

敷田座長

メンバーも枠組みも変えてという事になる。

斜里町 増田

最初のスタートは誰が音頭を取るか決まっているのか。

敷田座長

会議の開催者が招集して、会議の性質を変えて進めるという事になると思うがそれで良いか。

事務局 環境省 山本

それで進めて良いと思う。事務局は持ち回りであり、本年度は北海道である。

敷田座長

誰が集めるという事ではなく、とにかく最小人数で集まり検討をすぐにスタートさせていただきたい。

中川委員

部会という形でも何でも良いので、ここの検討会議での決議で検討をスタートすると、そしてそういう枠組みを作って動き出す事をここで決める。本日からスタートするという事が大切である。

安田所長

とにかくスタートさせたい。事務局をお願いしている北海道とも調整し、とにかく早い段階で集まれるところから集まり、そこから誰を入れるかというのも議論をして行けば良い。とにかく立ち上げる事が重要だと思う。

敷田座長

一度集まっていたら、そこで進め方と会議の構成員を含めた性質について話を進める。

進めるに当たり、どういう状態に至るかという事を最初に話をしていただきたい。同床異夢はやめていただきたい。それから具体的な手続きをどう進めるかというのを決めていただきたい。過去の事は不問にしていただきたい。何をしなかったのではなしに、何がこれからできるかという議論をするという鉄則で行っていただきたい。それで宜しいか。

非常に危機感のある内容であるためベストエフォートであると思う。この場で合意をいただいたため、過去の事は不問にして将来に向かった話をお願いする。過去についての事は個人的に考えてほしい。この場で議論をしていては時間の無駄である。

以上で適正利用・エコツーリズム検討会議に必要な事項の検討が終わった。

本日の議論は議事録に全て記録として残される。言い足りなかった事やコメントについてはお手元のアンケート用紙に残していただきたい。

振り返りをしたい。本日は平成30年度第1回知床適正利用・エコツーリズム検討会議を開催した。

第1項目は、知床エコツーリズム戦略による提案の進捗状況を北海道庁大道氏より報告いただいた。

第2項目は、知床エコツーリズム戦略に基づく提案について。本日はフットパスの提案が1件あった。こちらは条件付きで部会設置を認めた。

第3項目は、実施部会からの報告、赤岩地区昆布ツアーと外国人旅行者向けの情報発信の強化部会から報告があった。

赤岩地区昆布ツアーについては、意見、質問があり、それに対する回答は次回この検討会議までに用意いただくという事になった。

外国人向けの情報発信の強化部会については、第二期に入るため新しい枠組みの提案を待つという事になった。

第4項目は、個別部会からの報告については4件の報告をいただいた。ウトロ海域における取り組みについては、次回からは知床ウトロ海域環境保全協議会として参加いただくという事になった。

第5項目は、その他 長期モニタリング計画について。見直しはワーキンググループに一任するという事になった。

また、第40回遺産委員会についての報告をいただいた。

最後に、ヒグマに関しては新しい枠組みの下で具体的な検討を始める。将来どのような状態にするのかを最初に合意してから具体的なステップを詰める。過去の事についてはお互い批判せずに、将来の事を優先的に議論する。(ヒグマとの遭遇で)死者が出るという予測がある以上、過去の事を争っている暇は無い。将来の事について検討を願う。

以上で第1回知床適正利用・エコツーリズム検討会議を終了する。長時間の議論ありがとうございました。

(閉会)